

「島根ブランド」の仏教遺跡・遺物

海を渡ってきた仏たち

県内でもっとも古いと考えられる仏像としては、平田市・鶴淵寺の「銅造観音菩薩立像」や出雲市・法王寺の「銅造聖観音菩薩立像」などが知られています。このうち鶴淵寺銅造観音菩薩立像の台座には、若狭部臣徳太理が父母の供養のために造ったという意味の銘が彫られています。その顔立は「こが異国情緒をかもし出しています。一方の法王寺銅造聖観音菩薩立像は、ひび目でそれとわかる異国風の顔立ちで、被り物なども「こが見慣れない物のように感じます。」

「こ」の二つの仏像は、朝鮮半島の新羅の影響で造られたと言われており、白鳳時代（七世紀後半）の製作と考えられています。製造地については正確にはわかっていません。

繊細・華美な瓦

奈良時代に全国で建てられた国分寺の多くは、奈良の平城宮と同様の瓦を使用していました。ところが出雲国分寺は、新羅風のデザインをほどこした瓦が使用されています。

現在の瓦は波形をしており、一種類の瓦（棧瓦）で屋根全体をおおつてができます。しかし古代の瓦は、屋根のほぼ全体をおおふ平瓦と、平瓦と平瓦の間をふさぐ丸瓦からなっています。軒の先端に置かれる文様を持った

古代島根の仏教関係の遺跡や遺物は、仏像の顔立ちから鐘にいたるまで、周辺各県と比較して異なる様相が伺えます。「こ」では、島根の仏教の特徴を探してみましよう。

瓦は、それぞれ「軒平瓦」「軒丸瓦」と呼びます。

ふつう軒平瓦には、唐草文を、軒丸瓦には蓮華文を配しますが、出雲国分寺の軒丸瓦は蓮華文のまわりに唐草文を巡らし、軒平瓦には唐草文の中に「花文」を三つ配しています。当時の瓦としては、たいへん美しく繊細な印象を受けます。新羅の影響を受けたと考えられる瓦は、出雲国分寺跡のほか、安来市の教皇寺跡、浜田市の石見国分寺跡など県内各地で見られています。

隠岐島からはもう一種類、違う雰囲気の花が見られます。五箇村の郡慶寺に見られるもので、「この瓦は朝鮮半島高句麗の影響とも言われています。」

新羅の鐘の音

県内の古刹（古いお寺）が所蔵する銅鐘には、朝鮮半島の新羅で造られたと考えられるものが二点あります。

加茂町光明寺の銅鐘もその一つで、これには鐘の全面に蓮華文と唐草文、吊り手の部分にも鐘の彫刻が彫られるなど、多くの装飾が施されています。この鐘の最大の特徴は、吊り手の横にある煙突状の筒です。この筒は鐘の音を反響させて低く柔らかい音にするもので、日本製の鐘には見られません。

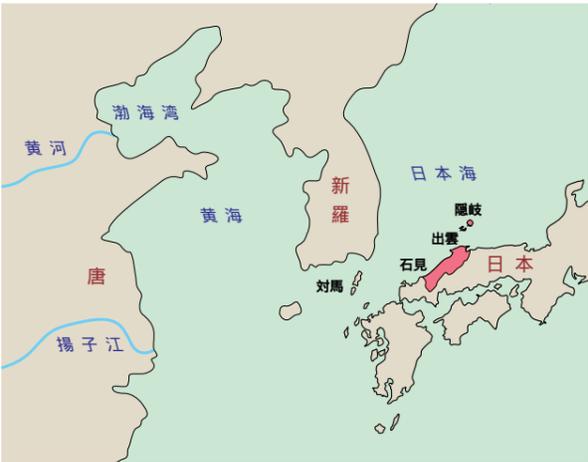
温泉津町高野寺の銅鐘は、新羅の鐘と同様の美しい装飾が施されていますが、吊り手横の筒は見えません。この鐘は高麗の鐘を模して日本で造られたものと言われています。

それからの島根の仏教

新羅との交流、やがて脅威に

奈良時代の島根の仏教が、朝鮮半島新羅などの影響を受けながら特徴的な文化を築いてきた様子を見てきました。しかし、その後この新羅との交流は、違ったものになっていきました。

飛鳥時代の日本は、新羅よりも、朝鮮半島の西側にあった国「百済」との交流を重視していました。しかし百済が当時の中国王朝「唐」と結んだ新羅によって滅ぼされ、朝鮮半島は新羅によって統一されました。「このころから日本と新羅の関係は、悪化していきます。新羅が日本にも攻めてくる可能性を考えた奈良政府は、九州を中心に防人を配置して守りを固めるようになりました。」



平安時代の唐・新羅と日本

さらに平安時代になると、政府は仏教の力までも利用して、新羅の脅威から日本を守ることにしました。朝鮮半島に近い出雲・石見など山陰道の国々には、四天王像を安置する寺を建て、新羅の脅威を去らせる祈禱を行うつと命令が出されました。結局、新羅が攻めてくることはありませんでした。当時の仏教は国際情勢にも影響されていたのです。

とから、「こ」に建てられたと言われています。この「鬼門」といつ考え方は、仏教ではなく陰陽道のもです。「このようにいろいろな宗教・哲学と関わりながら、やがて現在の姿になっていくようです。松江市の場合、松江城から見て鬼門にあたる方向には、普門院や枕木山の華蔵寺がその反対方向には天倫寺が建てられています。」

そして信仰は山に登る

奈良時代の仏教は、その後いろいろな側面を見せるようになっていきます。政治に深入りすぎて政治を腐敗させた道鏡事件をはじめ、仏僧が政治に介入する事件が増えてきました。また奈良時代の寺には、税を減免する措置がとられていたため、税対策として形ばかりの寺を建てる地方豪族もあり、日本での仏教そのものにゆがみが生じてきました。

「こ」のことから、政治や経済から離れた「こ」に寺を建てようとする動きが現われます。平安時代の寺院には、生活の場から遠く離れた山の上に造られたものが多くあります。斐川町にある天寺平慶寺は、標高100メートルの山の上にあり、「こ」に建てられたものかもしれません。

「こ」のことから仏教は、さまざまな姿を見せていきます。たとえば京都の比叡山・延暦寺は平安京の北東に位置していますが、この方向が平安京の鬼門（不吉な方向）にあたる「こ」



銅鐘（温泉津町高野寺・平安時代）



銅鐘の吊り手（安来市雲樹寺・統一新羅時代）

以上「島根ブランド」の仏像、瓦、鐘について見てきましたが、「これらはいずれも朝鮮半島に関わるものでした。島根県では現在も、海岸を歩いているとハンゲル文字の書かれた漂着物を多く拾うことができます。朝鮮半島がすぐ近くにあることを実感できます。古代島根の仏教については、ぜひ「こ」の身近な存在だった「こ」

り、「こ」時代の島根では、新羅・高麗の鐘の美しい文様が注目を集めた様子が見られます。